

灰運搬業務委託 仕様書

1 業務内容等

(1) 運搬予定量

運搬予定量は、7, 565トンとする。

(2) 運搬予定回数

運搬予定回数は、890回とする。

(3) 業務内容は、相模原市北清掃工場ごみ処理施設から排出される焼却残滓（灰）を相模原市一般廃棄物最終処分場及び南清掃工場に運搬し、投棄を行うものとする。

2 履行期間

令和7年6月2日から令和8年3月31日まで

3 履行場所

相模原市緑区下九沢2074-2 ほか

（北清掃工場及び一般廃棄物最終処分場・南清掃工場間とする。）

4 業務日

土曜日・日曜日、祝日及び発注者の指定する日を除く毎日。ただし、発注者の業務に支障のある場合には発注者の指示に従うものとする。（年始については、発注者の指定する日に業務を行う。）

5 業務時間

午前8時30分から午後4時30分までとする。ただし、発注者の業務に支障のある場合には発注者の指示に従うものとする。

6 使用車両

(1) 使用車両は、一般貨物自動車運送事業の免許及び一般廃棄物処理業の許可を受け、灰が飛散・流出し・悪臭が漏れる恐れがないよう施した仕様とする。詳細については次のとおりとする。

①受注者の自己保有若しくはそれに準じたもので、本委託業務契約期間中受注者が使用できる車両とし、1車につき運転手1名を配属するものとする。なお、一般貨物自動車運送事業の免許及び一般廃棄物処理業の許可を受けていない車両の使用は厳禁とする。

②灰の飛散防止のため荷台上部に開閉式の蓋を取り付ける

③水漏れ防止のため荷台にステンレス内張り等の施工を施す。

④車両は深ボディ型ダンプ若しくはアームロールダンプタイプとする。

⑤荷台の内寸の大きさは5100mm×2200mm×1350mm程度とする。

⑥車両の全高は3300mm以内とする。

(2) 使用車両には、常に特別管理一般廃棄物の種類等廃棄物の処理及び清掃に関する法律施

行規則で定める事項を記載した書類を携行しなければならない。

- (3) 使用車両は、神奈川県「生活環境の保全等に関する条例」、国の「改正自動車NO_x・PM」法等の基準に適合する車両を使用すること。

7 計量及び運搬回数の計数

- (1) 運搬量の計量は、発注者の指定する計量機を使用するものとする。
(2) 運搬回数の計数は、発注者の算定したものとする。

8 運搬経路

運搬経路は、発注者が別紙図面に定めた経路に従うものとする。ただし、発注者が運搬先の変更を指示した場合並びに受注者がやむをえない事情により事前に発注者の経路の変更を申し入れ、これを発注者が承認した場合はこの限りでない。

9 作業上の注意

- (1) 受注者は、運搬業務の実施にあたり、走行中は必ずシートをかけ灰の飛散や、汚水の流出の防止に適切な措置を講じるものとする。また、車両の走行においては、道路交通法を遵守するとともに、運搬経路付近住民に対する環境障害とならないよう常に配慮するものとする。
(2) 受注者は、積み込み及び投棄を行うにあたっては、関係法令等の特別教育を受けた者が、現場の発注者の指示に従い安全の確保に努めること。また、積み込み及び投棄等の作業時においては、マスク、ヘルメット等防護具を使用すること。
(3) 受注者は、業務の実施途上において重大な事故が発生したときは、直ちに応急の措置を取るとともに、速やかにその状況を発注者に報告しなければならない。

10 運搬業務の停止

発注者は、施設の事故等により、受注者に運搬業務の停止を命ずることがある。ただし、この場合、補償料金等は支払わないものとする。

11 関係法令

本委託業務の履行に際して、受注者は廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同施行令、同施行規則、道路運送法、道路運送車両法その他関係法令を遵守すること。

12 報告義務

- (1) 受注者は、委託業務を遂行するにあたり、使用する車両及び人員を発注者に報告しなければならない。
(2) 受注者は、当該月の業務完了後速やかに、灰運搬報告書を発注者に提出しなければならない。

1 3 事故処理

本委託業務遂行中に、発注者の施設に損害を与えた場合は、受注者の責任において直ちに現状に復するものとする。また、作業中の事故については、一切受注者の責任において処置しなければならない。

1 4 その他

- (1) 受注者は、別紙業務実施における環境配慮について遵守すること。
- (2) 本仕様書に疑義が生じたとき又は明記されていない事項については、発注者と受注者が協議のうえ決定する。

以 上